

求める会ニューズ No. 930

食料環境セミナー報告

「日本のアグロエコロジーを どう考えるか」

11月30日(水) 10:30~12:00
 愛媛大学農学部 准教授 日鷹一雅さん

アグロエコロジー(農業生態学)とは1980年代に欧米で生まれた学問で行き過ぎた商業主義の集約的農業の反省から始まり、持続可能な生態系を守る農業のあり方や社会のあり方を求める科学であり、運動、実践を含む包括的な学問分野といわれています。そのアグロエコロジーを日鷹先生は33年間研究されてきました。開口一番「アグロエコロジーは忙しい分野です」と言われ、今も環境省や農水省の依頼を受け全国の生き物の生態を調査されています。昆虫の生態を調べる中で急速な地球温暖化が進んでいることを実感されるそうです。赤とんぼがこんな季節までいるのかと驚かされることも少なくないそうです。

私たちの支援する有機農業における水田農法の中にも地球温暖化に加担する部分があり、それが海外からの厳しい批判を受けると言われました。全国をまわって最も危惧されていることは、衆知の事実ですが農村の高齢化です。これは世界的な農業の傾向とのことです。又、先生は33年間研究の中心となった3つの事をあげられました。

- ① 農業の生態学
- ② 食べ物の生態学
- ③ 農村、漁村の生態学

① に関しては、本当に必要な生態調査をしないとイケない。赤とんぼの調査な

どより、稲に付くウンカやその天敵の調査の方が急務とのことです。

② に関しては今日本でも始まった食育の分野で、古来日本は親から子へ受け継いできたが、今は食育として取り上げなければならない。

③ に関しては最も問題が多く、農業漁業を支える村があるかという問題。若者が減り村が存在していけるか。小農が残っていけない現状があり、生産エネルギーに対して収量が少ない。又田舎暮らしにはお金がかかる事も大きい。この3点は困難なことも多いが、これを崩さずここから生み出されるスキルを伝えていき持続的な農家の暮らしを守っていかなければならないと述べられました。最後に質問でアグロエコロジーは有機農業と理念も近いので農薬や遺伝子組み換えを反対する立場にたっているのかという質問には、理念には共感するが、実際に圧倒的な耕地面積を持つ慣行農業も視野に入れ、軸足をどこかに置くというのではなく農法の垣根を超えて柔軟に農業全体としてとらえているといわれました。

(鶴甲団地 G 小浦節子)

次回食料環境セミナー

「廃炉にむけて・美浜町の自立のために」

12月21日(水) 10:30~12:00

森と暮らすどんぐり倶楽部

代表 松下 照幸さん

今月は第3週の水曜日です

ゆずるは百姓連を訪ねて

2016年12月10日（土）

「おいしいね！」が育てる元気 第4回 産地に行こう をテーマに、南あわじ市のゆずるは百姓連を訪問。バスツアーで総勢30名を超える参加者と一緒にみかんの収穫を体験してきました。

行きのバスの中ではクイズ大会をしながら、終始リラックスモードの中、気づいたら南あわじ市に到着。思ったより暖かく、澄みきった青空に、晩秋の美しい紅葉がよく映え、絵葉書に出来そうな景色に感動！新たな淡路島の顔を見ることができ、益々淡路島が好きになりました。

みかんの畑では、みかんの収穫ともぎたてのみかんを頂きました。もぎたてのみかんはとっても甘くて美味しかったです。収穫時、みかんのヘタの切り口が尖っていると、他のみかんを痛めて、すぐ腐る原因にもなるということを教えて頂きました。また畑の中を歩いていると、ふかふかのベッドの上を歩いている感覚で、この土がみかんをおいしくしてくれているのだと感じました。

程よく体を動かした後に、生産者の方と一緒に昼食を頂きました。山口さんが隣だったこともあり、色々お話を聞かせて頂きました。その中で、温暖化の影響により、ビワが早い段階で実をつけ、急な寒波が来ることで、寒さに実が弱いため、去年は厳しかったという話が印象的でした。また普段は無口の？山口さんが、みかん作りにかかる思いを饒舌にみんなに語って頂きました。孫・ひ孫に安心して食べさせられるビワ・みかん作りが目標とされており、農薬ではなく、「農業用毒薬」という表現が使われ、木が枯れては続けていけない、皆のところ届けられないと、なるべく使いたくはないが使わなければならない葛藤が伝わってきました。

帰りには、収穫したみかんとゆず、レモンもお土産にたくさん頂き、山口さんをはじめ生産者の方のお心遣いに感謝しております。有難うございました。

最後に、バスツアーの道中、こどもクイズ大会を通して、子供たちが仲良くなり、人前でいつの間にか物おじせず、MCをしていた娘の成長に親バカながら、少し感動を覚えつつ、特に帰りでお疲れの方にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

(熊野町G 谷口 一生)



娘の由莉が描きました

雨になるかと心配した天気もなんとか降らずにすみ、総勢 40 人がノコギリを引いたり根っこから抜いたり、思い思いの場所で大豆の収穫を楽しみました。求める会からは飛田さん、近藤さん一家、谷口さん父娘とお友達、池田の参加でした。

このお友達は後日谷口さんを通じ、その熱意から途中参加していただくことになったので今年目標の 300 口になりました（拍手）。他にもインターネットで知って参加された方もおられて、高木さんが丁寧に説明されていました。

高木さんの大豆で作った豆腐を湯豆腐で食べるはずでしたが、出汁が湧くのを待つ間にほとんどの人が冷奴で頂き、鍋は野菜だけでしたが美味しく頂きました。

お腹が落ち着いたところであしの会の奥谷さんが子供達向けに、花を見てなんの野菜か当てるクイズなどをしましたが、さすがトラスト会員の子供達よく知っていました。



高木さんからは土と肥料の話がありました。肥料については私達が知らないけど大事な役目をしているものがあり、そのような成分を補充するためには植物で作った堆肥がいいと考え、最近は動物性の堆肥から替えていますとの事でした。今回も高木さんがいろいろ学習され、チャレンジされていることに刺激を受けて帰途につきました。(松並 G 池田 真知子)

葉香製茶さん主催の交流会

お茶の生産者、^{ようこう}葉香製茶さん（奈良市月ヶ瀬）の呼びかけで、提携するいくつかの会が集まり、11月27日芦屋市民センターで交流会がありました。出席者は求める会の3人（高橋、西、飛田）を入れて6~7団体・約20名、そして生産者の辰巳純一さんとお母さんの洋子さんでした。議題は、①2016年度産茶について ②自走式茶刈機導入の報告 ③その他。まず全員の自己紹介があり、求める会との提携はいま始まったばかりですが、他の会（土の会、よつば牛乳を飲む会、あしの会、和達の会など）はすでに30~40年の提携だそうです。

①2016年度産のお茶について

今年は霜もあたらずいい具合である。はな茶（最初のお茶）はちょっと渋味があるが、2茶（煎茶）は濃厚な味になった。番茶は味が乗った。総合点は80点位かな、とのこと。葉香製茶のお茶こよみは、5月新茶、6月つゆ番茶（ほうじ加工）、7月2茶（煎茶）で終了。10月の秋番茶や3月の春番茶はあまりおいしくないので扱っていない。お茶の病気、害虫は「もち病」「ウンカ」「芯切り虫」がいるが、農薬や化学肥料は提携を始めてからは一切使っていない。土づくりは、鶏糞、枯草、ススキなど。

②現在1町2反ほどの茶園だが、作業が多いので茶刈機を買った（500万円）。

③その他 お茶の知識をいろいろ教えてくださった。「かぶせ茶」のこと、お茶の苦みはカフェインで渋味はカテキンであること、お茶をいれるお湯の温度のことなどなど。

午後の部は、「次世代につなげるには？」について。

お茶文化がペットボトルの便利さに押されて、特に若い世代に育っていないことについて話し合いました。押し売りでもいいので話そう・生産者のお話は面白いので機会をとらえて話してほしい・マイナーでもそれを貫いて行こう・正しい情報を伝えようなど、活発な意見が出た中で印象的だったのは、若いコープ自然派会員の「若い人はほんとのことが知りたい、できれば、おいしいよ、本物の味だよなどポジティブな話がいい」の意見でした。

最後にホットニュースです。純一さんが12月8日結婚とのこと、いきさつもお聞きしましたが、紙面の都合で別の機会に……。末永くお幸せに！（鶴甲団地G 飛田みえ子）

年末・年始配送予定

月	火	水	木	金	土	日
12/26	27	28	29	30	31	1/1
				野菜・卵 年内最終		
1/2	3	4	5	6	7	8
	配送休み		配送休み	配送休み		
1/9	10	11	12	13	14	15
	野菜・卵 配送開始 お茶・油、牛肉		お茶・油 豚肉	お茶・油 牛肉		

※長芋は適期に配送します。 ※野菜・卵：年初は第2週目 1/10（火）からの配送です。

【お願い】協栄運輸から「あしの会」に配送業務がスムーズに移行できるように必要ですので、心配なこと、尋ねたいことがありましたら、小さなことでもいいのでお知らせください。例えば「野菜を今までどおり、袋に入れ替えてもらえますか？」など、なんでも結構です。事務局までお寄せください。TEL・FAX 078-822-0810
第2FAX 078-842-2430



【果物係より】温州ミカンの追加注文・進物用の注文を受け付けています。無くなり次第、終了しますので、事務局まで申し込んでください

☆1月13日（金）のトラックに、市有研の一色さんが添乗されます。ステーションでお出迎え、お願いいたします。

端境期の助っ人！

端境期で野菜が不足

する時期に、若い有機農業の生産者の野菜がコンテナに入るかもしれません。以下の名前野菜が入っていたら、助っ人の生産者です。

【丹波・市島有機農業生産物出荷組合】
西垣（事務局長）、井上、岩元、小谷、濱野、末利

【出荷組合以外の生産者】長山

2016年収穫感謝祭収支報告

収 入		支 出	
食券（豚汁・ 喫茶・抹茶）	96,700	豚汁材料	39,508
		抹茶材料	2,860
喫茶（現金）	7,250	喫茶材料	4,660
ケーキ・惣菜	79,610	ケーキ・惣菜材料	39,588
果物	44,250	果物	22,050
大豆・小豆 ・米	18,680	大豆・小豆 ・米	15,400
フランクフルト	8,800	フランクフルト	7,398
出店料 （事業部）	20,000	学生交通費 （6人分）	2,280
出店料（陶器）	3,000	御礼（ヨガ）	5,000
		会場費	41,310
		消耗品	1,951
計	278,290	計	182,005
残 高		96,285	

食料環境セミナー

「電力自由化の「ト/セツ」」

2017年1月25日（水）10：30～12：00

京都大学大学院地球環境学舎

修士課程 加志村 拓 さん

主催・会場：神戸学生青年センター

参加費：600円

※託児（無料）あり。前々日までに要予約。TEL078-851-2760

FAX 078-821-5878